

「二輪車市場動向調査」の結果を読む 新車購入者にみる変化のポイント

- 日本自動車工業会は隔年で「二輪車市場動向調査」を行っている。
- 今年4月に、2019年度調査の結果が発表された。
- 調査結果のなかから、大きく変化した点などポイントを紹介する。

一般社団法人日本自動車工業会（自工会）が実施した「2019年度 二輪車市場動向調査」のメインである「新車購入ユーザー調査」は、過去から同じ設問を続けており、新車購入者の特徴や使用実態の変化などを把握できる。調査結果のなかから、注目すべき傾向をいくつか紹介したい。

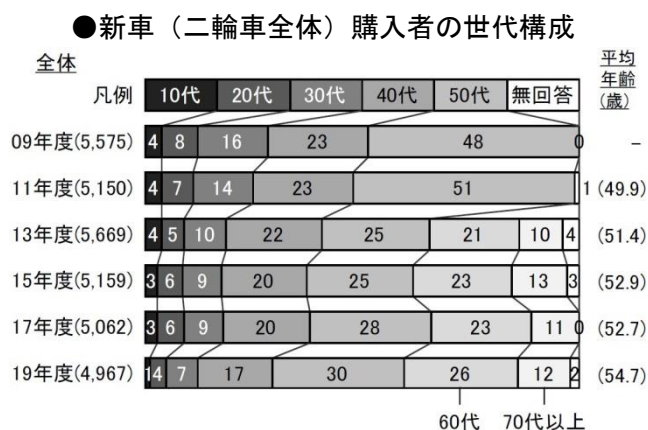
■新車購入ユーザー調査の概要

①調査方法	郵送調査法
②調査地域	全国
③調査対象者	2018年6月～2019年5月に新車を購入した二輪車ユーザー（国内4メーカー：カワサキ・スズキ・ホンダ・ヤマハ） ※海外メーカー二輪車ユーザーを含まない
④対象者抽出方法	調査応諾者より、タイプ別×排気量別×地域別の市場構成に合わせ対象者を割り当て、抽出
⑤調査期間	2019年8月26日～10月4日
⑥有効回答者数	4,967人

新車を購入する世代は「50～60代」がメイン

今回の2019年度調査で、二輪車を新車で購入した人の平均年齢は54.7歳で、前回の2017年度調査から2歳上昇した。

世代構成率を見るとボリュームゾーンは「50代」の30%で、「60代」も26%と多い。“人



生 100 年時代”といわれるが、いまや 50～60 代が元気なことに違和感はない。「70 代以上」の 12%を含め、二輪車の新車購入は、50 代以上が全体の 68%を占めている。

近年の二輪車販売は、原付一種（～50cc）が減少傾向にあるが、原付二種（51～125 cc）は横ばい、軽二輪（126 cc～250 cc）と小型二輪（251 cc～）は微増傾向にある。

それを踏まえて“排気量×タイプ別”で世代構成率を見ると、近年売れている「126～250 cc オンロードタイプ」は、50 代が 30%（前回から 8 割増）、60 代が 20%（同 6 割増）となり、いわゆる 1980 年代の“バイクブーム世代”が、新車の軽二輪スポーツに回帰してきていることが推察できる。

●新車（126～250 cc オンロード）・世代構成

オンロード 126～250cc n=370 (2019年度)						平均 年齢 (歳)	
凡例	10代	20代	30代	40代	50代		無回答
09年度	5	22	27	26	20	1	-
11年度	5	25	22	26	22	0	(38.9)
13年度	4	16	22	25	20	11	(42.2)
15年度	4	14	19	27	26	9	(42.7)
17年度	2	21	17	23	22	14	(43.2)
19年度	1	13	11	23	30	20	(48.0)

この傾向は、製品価格の高い「401cc～ オンロードタイプ」ではより顕著で、50 代が 48%（前回から 8 割増）、60 代が 20%（同 9 割増）となった。最新の大型オンロードモデルに食指が動き、なおかつ購買力のある 50 代以上が、このクラスの新車市場をいっそう強気に牽引していることがわかる。

●新車（401 cc～ オンロード）・世代構成

オンロード 401cc～ n=412 (2019年度)						平均 年齢 (歳)	
凡例	10代	20代	30代	40代	50代		無回答
09年度	0	12	30	33	23	0	-
11年度	0	12	19	36	32	0	(44.0)
13年度	0	6	15	33	32	10	(47.2)
15年度	0	8	12	30	37	12	(47.6)
17年度	0	9	13	26	40	11	(47.7)
19年度	0	6	22	48	20	2	(52.4)

一方、新車を購入した「40 代」の構成率は、今回 17%（前回から 3 割減）。30 代以下は合わせて 12%（同 6 割減）となった。より若い世代の構成率が減っているのは、たんに“若者のバイク離れ”と断じるのは早計で、若い世代が中古車市場へシフトしている可能性など、さらに検証してみる必要があるようだ。

軽二輪スポーツのヘビーユーザーが増加

2019年度調査にみる新車購入ユーザーの週間使用日数は、全体平均で3.7日。前回調査から0.2日減少した。これに伴って、新車購入ユーザーの月間走行距離は、今回の全体平均が239kmで、前回調査から26km減少した。

これを“排気量×タイプ別”で見ると、とくに「126～250cc オンロードタイプ」では、週間使用日数が調査回ごとに減少しているなか、月間走行距離が300kmを超す“ヘビーユーザー”の構成比は減少しておらず、ツーリングなどでの長距離走行は減っていないと考えられる。近年の二輪車市場において、趣味性の高い軽二輪スポーツの人气が反映された変化・傾向といえそうだ。

●週間使用日数と月間走行距離

<週間使用日数>						<月間走行距離>							
全体	%					平均 (日)	全体	%					平均 (km)
凡例<n>	毎日	5～6日	3～4日	それ以下	無回答		凡例<n>	～100km	～300km	～500km	それ以上	無回答	
09年度<5,575>	22	32	19	26	0	4.3	09年度<5,575>	42	27	15	15	1	270
11年度<5,150>	23	33	18	26	1	4.3	11年度<5,150>	43	25	15	13	4	257
13年度<5,669>	23	34	16	26	2	4.4	13年度<5,669>	39	27	15	15	4	274
15年度<5,159>	19	30	15	32	4	4.1	15年度<5,159>	41	24	15	15	5	273
17年度<5,062>	20	31	14	35	1	3.9	17年度<5,062>	38	26	16	14	6	265
19年度<4,967>	18	28	12	40	2	3.7	19年度<4,767>	38	25	15	16	6	239

オンロード軽二輪(126～250cc)						オンロード軽二輪(126～250cc)							
凡例<n>	毎日	5～6日	3～4日	それ以下	無回答	平均 (日)	凡例<n>	～100km	～300km	～500km	それ以上	無回答	平均 (km)
11年度<->	7	20	12	60	1	2.9	11年度<->	28	28	17	24	3	361
13年度<->	6	18	13	62	1	2.8	13年度<->	23	25	24	27	2	395
15年度<295>	6	13	13	66	2	2.6	15年度<295>	24	29	21	24	2	369
17年度<296>	9	11	9	71	0	2.1	17年度<296>	21	34	21	20	4	341
19年度<370>	5	10	10	74	1	2.0	19年度<354>	25	29	21	23	2	297

新車への満足度は期待度より高い

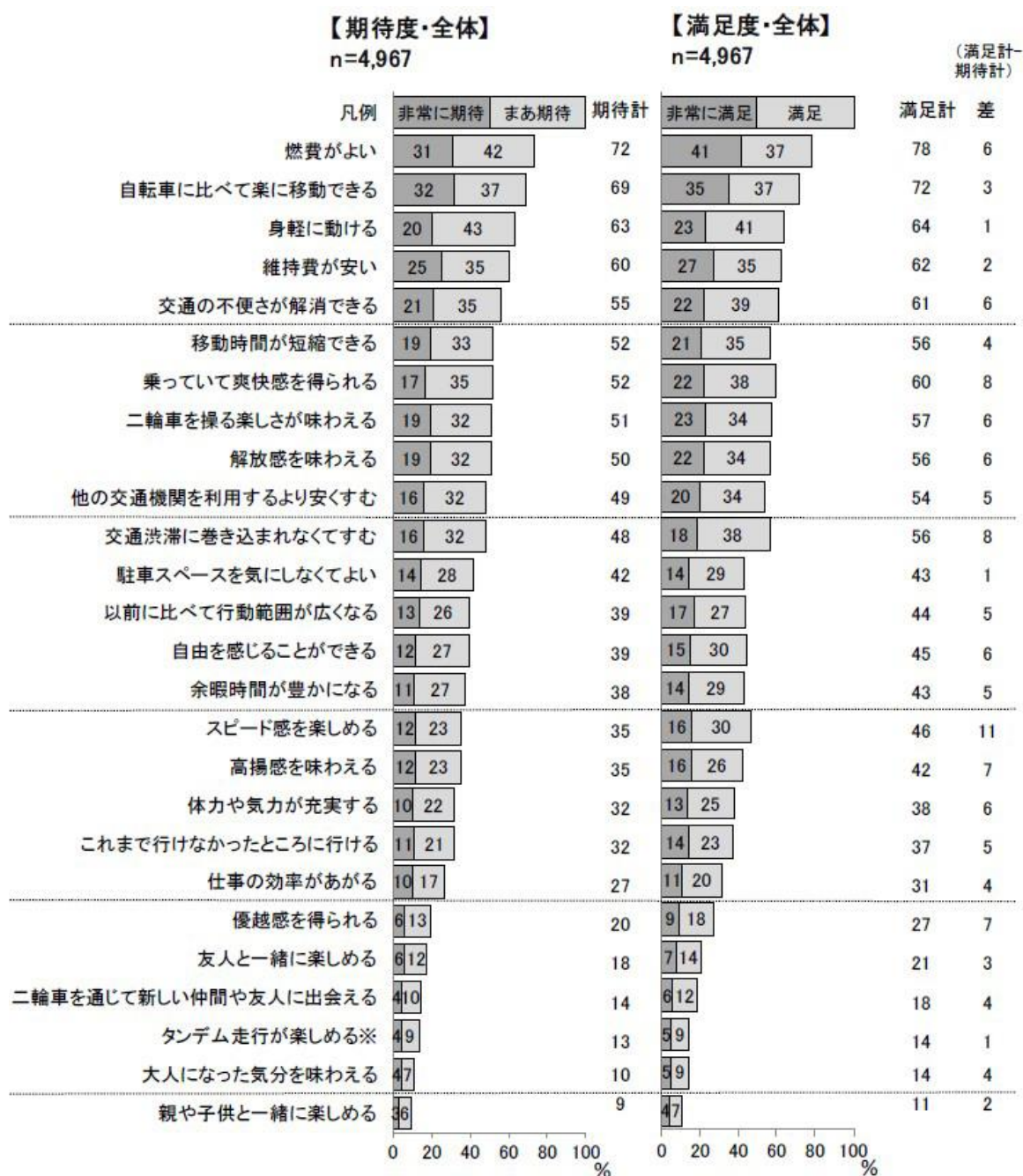
「新車購入ユーザー調査」では、購入した新車に対し、事前に抱いた期待度と、使用した後の満足度について、さまざまな項目ごとに比較している。

期待度が最も高い項目は「燃費がよい」で、全体の72%から期待されている。続いて「自転車に比べて楽に移動できる」69%、「身軽に動ける」63%、「維持費が安い」60%、「交通の不便さが解消できる」55%などとなっている。

こうした事前の期待に対して、使用してからの満足度との“差”に注目してみると、じつにすべての項目で満足度が上回っていた。とくに差が大きかったのは、「スピード感を楽しめる」が、期待度 35%⇒満足度 46% (11 ㊦プラス) でトップ。「乗っていて爽快感を味わえる」が期待度 52%⇒満足度 60% (8 ㊦プラス)、「交通渋滞に巻き込まれなくてすむ」が期待度 48%⇒満足度 56% (8 ㊦プラス) などとなっている。

一方、差が小さかったのは、「身軽に動ける」期待度 63%⇒満足度 64% (1 ㊦プラス)、「駐車スペースを気にしなくてよい」期待度 42%⇒満足度 43% (1 ㊦プラス)、「維持費が安い」期待度 60%⇒満足度 62% (2 ㊦プラス) などとなっていた。

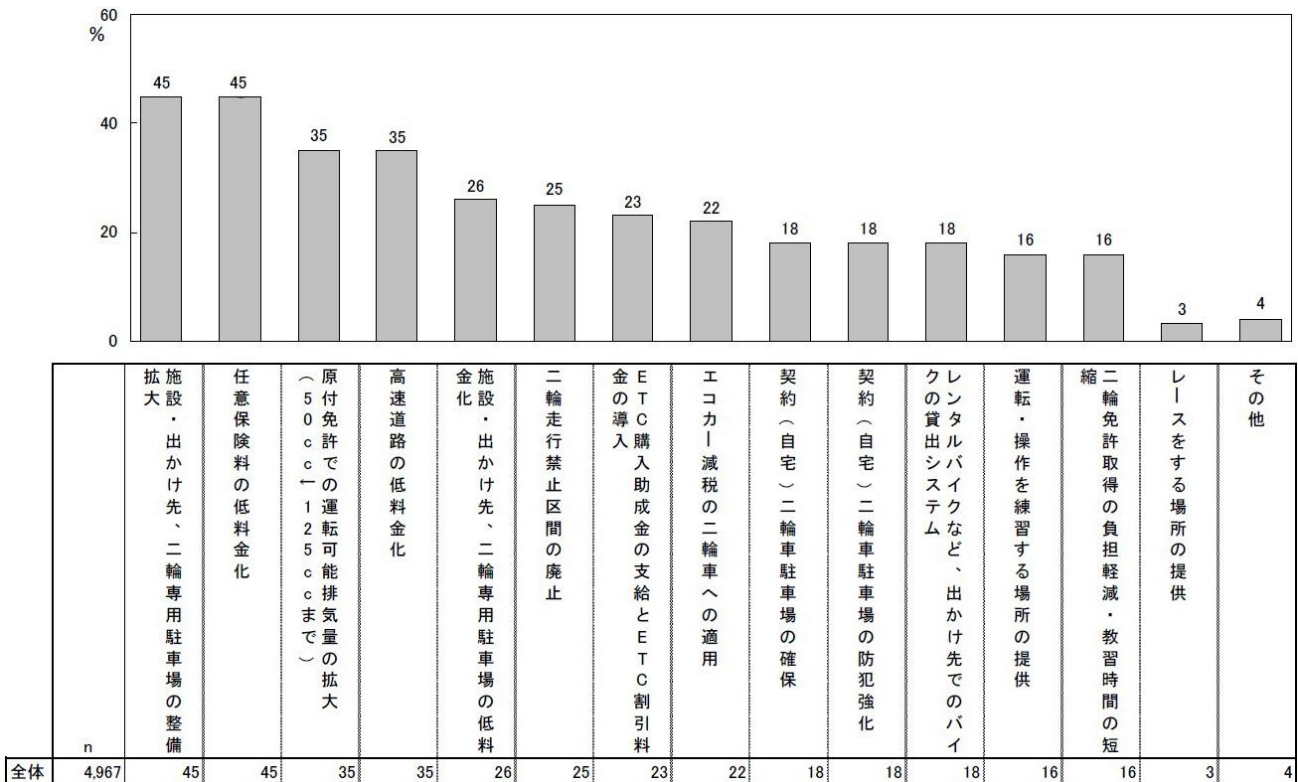
●購入した新車（二輪車全体）への期待度と満足度の比較



期待される二輪車周辺のインフラ・制度の整備

調査では、二輪車を取り巻く周辺（施設やインフラ、制度など）に関して、二輪車ユーザーが何を期待しているかも明らかにしている。その結果を見ると、「二輪専用駐車場の整備拡大」と、「任意保険料の低料金化」への期待が最も多く、全体の45%が改善を求めている。ほかにも、「原付免許での運転可能排気量の拡大（125cc まで）」35%、「高速道路の低料金化」35%、「二輪車駐車場の低料金化」26%、「二輪車走行禁止区間の廃止」25%など、制度の見直しへの期待は大きい。

●二輪車の周辺への期待（施設・インフラに対する期待）



ここでは取り上げなかったが、この調査ではほかにも、①レンタルバイクなどにおける二輪車のサブスクリプション（定額）の受容性、②一般の人々のニーズに合う二輪車ベネフィットの発掘、③求められる「あるべき販売店」と実際との差、④乗り換え需要の動機把握などを調査した結果をまとめている。

詳しい内容は、以下のウェブサイトから PDF データを入手し確認されたい。

■2019 年度二輪車市場動向調査

http://www.jama.or.jp/lib/invest_analysis/pdf/2019Motorcycle.pdf